

松田町における富士山 火山災害対策について



質問者
中津川 定雄 議員



令和3年3月に新たな富士山ハザードマップが公表され、松田町に溶岩流が到達する可能性が示されたことから、警戒避難体制を特に整備すべき地域として「火山災害警戒地域」に指定された。また、広範囲に火山灰が降り、県西部では30cm以上の堆積の可能性があるとされていることから、町における富士山火山災害対策について問う。

質 富士山の火山災害に対する町の取り組み状況について。

答 神奈川県や山梨県、静岡県との3県や関係市町村、気象庁、火山専門家などで構成する「富士山火山防災対策協議会」に参画し、広域避難、降灰

対策、住民への情報伝達等について検討を行っている。また、改定された富士山ハザードマップを踏まえ「松田町富士山火山避難計画」を策定した。

質 降灰に伴う町民の安全確保や灰の処理等の対策について。

答 住民個人が行う安全対策としては、最低1週間分の食料や飲料水のほか、防塵マスクやゴーグルなどの備蓄を周知している。一般家庭の敷地内に降灰した灰については、土地所有者の責任によりゴミ集積場等に出していただき、その後の処分は町が行う。

火山災害対策計画は第7次総合計画に明記し推進する

回答（町長）



質 想定される溶岩流に対する避難計画について。

答 大規模噴火の場合、町民約7600人が避難しなければならぬことが想定されている。避難は町内での避難を基本と



松田山より望む富士山

新松田駅南口と 北口整備事業の今後について



質問者
井上 栄一 議員



質 町は、新松田駅を南北一帯の交通結節点として位置付けているのか、駅全体の交通処理計画を策定しているのか。

答 平成31年策定の「新松田駅周辺整備基本構想・基本計画」において北口・南口を一体的な交通結節点として位置付けている。交通量調査や利用者調査も南口を含めて実施済みで、将来的には、南北自由通路、橋上駅舎、南口駅前広場バス交通の分散を含めた計画としている。

質 南口駅前広場の位置付けは。また小田原方面行きバスの南口への移設方針は。

答 北口は再開発事業による都市計画決定、南口

は道路事業として整備という異なる手法を採用。理由は、南口駅前広場単独では法的な都市施設の要件を満たさないため、道路事業として用地交渉等を継続している。

質 再開発組合任せではなく、町として駅前全体、歩道、公共施設、商業施設周辺を含めたバリアフリー構想を持つべきだが。

答 今年度改定する「立地適正化計画」の中にバリアフリーの考え方を盛り込み、再開発事業にも反映させていく。



自由通路、橋上駅舎は構想の旗は下ろしていない 将来的な実現を目指す

回答（町長）

質 本年度予算に南口エレベーター整備があるが、北口、南口を通じたバリア

フリー対応の計画なのか。
答 南口エレベーター整備は、令和8年度に設計、令和9年度末に完成予定で進めている。北口再開発側でもエレベーター・エスカレーターを検討、駅全体としてバリアフリー化を進める。

質 再開発組合任せではなく、町として駅前全体、歩道、公共施設、商業施設周辺を含めたバリアフリー構想を持つべきだが。

答 今年度改定する「立地適正化計画」の中にバリアフリーの考え方を盛り込み、再開発事業にも反映させていく。

橋上駅舎、南北自由通路は、基本構想・基本計画の旗を下ろしたわけではない。小田急電鉄、JR東海、神奈川県、地権者との調整が必要であり、将来的な実現を目指していく。

南口エレベーターも将来の自由通路や橋上駅舎と接続できる位置を想定して計画している。